

## 優秀検定員の表彰を受けて

熊本県乳用牛群検定組合  
上之蘭 孝子

私は、検定員になって10年になります。はじめに検定員の話を受けた時には、既に3つの仕事をしていましたので、まさか自分がこの仕事をするとは思っていませんでした。返事に戸惑っていたら、「男の人が見つかったよ」と連絡があり、頭の中からすっかり消えていると、「ハンディの操作に自信がないと断られたので、再度検討して」と、再び相談がありました。



今の仕事をすぐには辞められないので、仕事の内容を当時の組合（荒玉検定組合）へ聞きに行くと、組合の方では、私がすっかり検定員として仕事をすると思っていたらしく、直ぐに4戸の農家さんへ案内されました。その場でハンディの操作を軽〜く説明されたのですが、3つ掛け持ちしていた仕事の内、宅食の配送の仕事でハンディを使っていたので、違和感なく理解することが出来、4つの仕事を掛け持ちすることとなりました。

私はとても寒がり、冷え性・低血圧も重なり、初めての冬を乗り越えられるか、それがとても心配でしたが、何とか乗り越えることが出来ました。今となっては、一つの風物詩になっているのですが、最初の頃は私の着ぐるみを見て、爆笑をされていたことを思い出します。

仕事をする中で、人間関係は重要な事項になるのですが、優しく理解のある農家さんばかりで、居心地が良く気が付くと10年も続けており、自分自身驚いています。

10年という月日の流れの中に、私事ではあります色んな事がありました。離婚により母子家庭になり、養育費も何も貰えず子供3人を育てていたのですが、現在の事務局に相談をすると、受持担当戸数を増やしてもらうなどしていただき、現在では25戸を受け持ち、労働保険、雇用保険、障害保険などが完備され、福利

厚生も充実し、検定員の仕事一つで生計を立てられるまでになりました。

また、色んな事があった時には、農家さんに励まされたり、季節のお野菜を頂いたりとても良くしてもらっています。

人見知りもせず、話し好きな私にとって、もしこの仕事を選んでいなかったら、少なくとも2~3の仕事の掛け持ちでやっているかと思う度に、検定員の仕事を引き受けて本当に良かったと思うのです。出来れば定年（六五歳）迄続けたいと思える天職です。

検定員となった最初の頃は、農家さんに行き乳量を測り、サンプルを取りハンディにデータを入力する事を無意識のまま、毎日繰り返していました。

私のいる組合には、酪農に対する知識が豊富な人、動物は好きだけど酪農に対する知識がない人もいます。私は、後者の一人です。

しかし、仕事を続けていく中で、年数回開催される講習会等に出来るだけ参加するようしていると、毎月の検定立会で得られた乳量、乳成分、繁殖情報などの様々な情報が分析・加工され、専門知識のあまりない私でも、農家さんの経営状態が見えてくる検定情報に驚いています。

最近では、検定員向けに検定情報を活用した勉強会など度々開催され、今では指導にはほど遠いものの検定情報を見ながら農家さんと会話が出来る様になりました。

10年という節目に立ち、またスタート地点に戻り、これからも色んな事を学び、農家さんとともに検定データを活用しながら、乳質（特に体細胞）や繁殖改善のお手伝いが出来ればと思います。

また、減産型の計画生産や飼料高騰による生産費増など厳しい環境の中で、今後益々牛群検定が農家さんに必要とされ、私自身も農家さんに必要とされる人材になれるよう、これからも頑張っていきたいと思っています。

自分では気がつかなかったのですが、友達や知人に仕事のことを聞かれて内容を話すると、「全国単位の仕事で、すごいね〜」と感動されます。

そのような仕事に携われている事を誇りに、あわせて、優秀検定員として表彰された自覚を持って、これからも頑張っていきたいと思っています。

最後になりますが、10年の長きにわたって検定員を続けられ、この度の優秀検定員を受賞できたのも、農家さんをはじめとした皆様にご支援をいただいた賜物です。謹んで感謝申し上げます。